

令和4年度
相模線複線化の早期実現
に関する要望書

東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社長

宮 田 久 嗣 殿

相模線複線化等促進期成同盟会

相模線複線化の早期実現に関する要望書

【要望事項】

リニア中央新幹線の開業を見据えた整備や各自治体のまちづくりが着実に進展する中、相模線の輸送力増強や速達性向上等、輸送サービスの改善が望まれることから、信号保安設備の改修や行違い施設の整備、部分複線化等の段階的整備を図り、沿線住民の切なる願いである、相模線全線複線化の早期実現に向けた取組を推進されますよう要望します。

相模線の現状

- 東京都心から約50kmに位置する相模線は、東海道本線や横浜線など東京や横浜方面に向かう5つの路線と接続しているが、単線のため、列車の行違いの待ち時間等により表定速度が低く、運行本数も少ないなど、周辺の鉄道と比較して十分な輸送サービスが確保されていない。

相模線を取り巻く環境

- 平成28年4月の交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」において、「新幹線駅へのアクセス改善や通勤・通学需要の急増等、輸送需要の動向等を踏まえて、例えば相模線、南武線等の輸送サービスの改善に資するプロジェクト等については、関係地方公共団体・鉄道事業者等において、検討が進められることを期待」と位置付けられている。
- 「かながわグランドデザイン」において、相模線複線化などの促進が位置付けられているとともに、「かながわ都市マスタープラン」において、全国との交流連携の窓口となる南のゲート(東海道新幹線新駅)と北のゲート(リニア中央新幹線駅)を結ぶ相模連携軸の整備・強化が位置付けられている。
- 東海道新幹線新駅を誘致している寒川町倉見地区と相模川対岸の平塚市大神地区において、環境と共生する魅力ある一体的な都市を目指す「ツインシティ」の整備に向けた取組が進んでいる。
- リニア中央新幹線開業に向けた取組が進められており、倉見駅付近への東海道新幹線新駅設置の可能性が高まっている。
- 小田急多摩線や相鉄いずみ野線の延伸等の交通ネットワーク拡充による、東京都心や横浜・川崎などの拠点との連携強化も期待されている。
- 首都圏中央連絡自動車道の一部であるさがみ縦貫道路の全線開通や、新東名高速道路の海老名南ジャンクションから新秦野インターチェンジまでの区間の開通等により、沿線の土地利用や企業集積が進んでいる。

同盟会の取組

- 平成25年度に相模線を取り巻く環境の変化を踏まえ、複線化の早期実現に向け、概ね令和27年までに取り組む内容についてまとめた、「新たな相模線交通改善プログラム」を策定した。
- 行違い施設整備の検討や駅及び周辺の交通改善、地域の魅力創出の需要喚起施策等を実施している。

令和 5年 2月 9日

相模線複線化等促進期成同盟会
会長 相模原市長 本村 賢太郎